

セントラルケンタッキー日本人補習校 COVID-19 と再開について

2021年12月14日

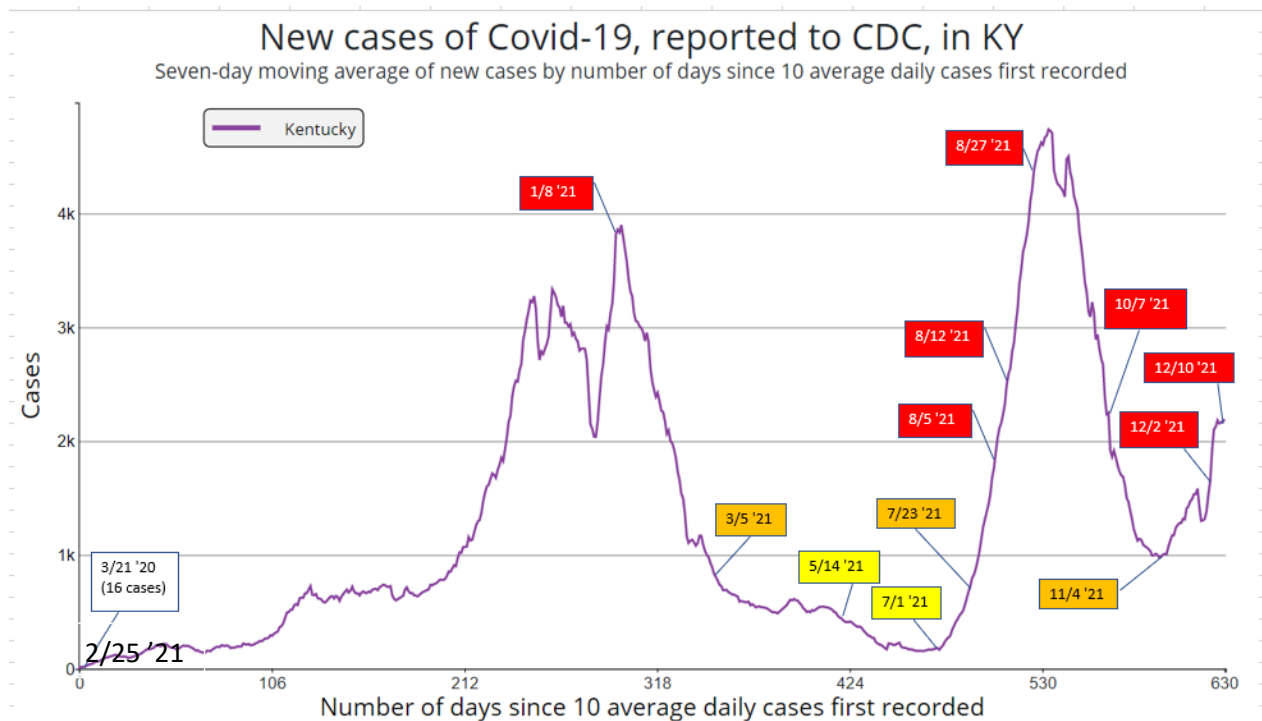
セントラルケンタッキー日本人補習校理事会

理事長 伊東 博史

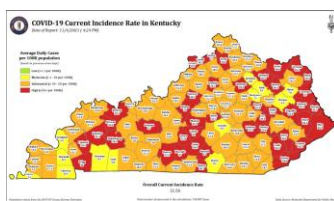
平素より補習校運営にご協力賜りありがとうございます。

補習校では COVID-19 の悪化を受けてリモート授業を続けておりますが、一方で再開に向けて引き続き議論は重ねております。再開のカギはとにもかくにも COVID-19 の状況によるのですが 10月8日にお配りした状況からのアップデートを報告申し上げます。

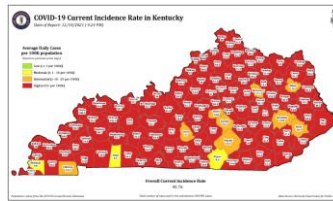
1. ケンタッキー州 COVID-19 発生状況推移



11/4 '21



12/10 '21



Average Daily Cases per 100K population

(based on previous seven days)

- Low (≤ 1 per 100K)
- Moderate ($> 1 - 10$ per 100K)
- Substantial ($> 10 - 25$ per 100K)
- High ($> 25+$ per 100K)

(出典・ [CDC COVID Data Tracker](https://www.cdc.gov/covid-data-tracker/)、 kycovid19.ky.gov - kycovid19.ky.gov (egov.com))

8月27日前後のピークを過ぎてから順調に下がってきた発生率ですが、11月初旬を境に再び上昇に転じており、12月にはKY州全体でもFayette郡でも10万人当たり25人以上の“Red”の状況に戻ってしまいました。これからXmasに向けてこの傾向は変わらないと思われます。

2. 対面授業再開に向けて

2021年度のKY州の学校は、学力低下の防止並びに保護者の就業環境を整えるため原則として対面授業を継続する方針を取っています。一方で補習校に関しては、①様々な地域から集まってくる児童生徒並びに送迎の保護者への感染リスクを抑える、②学校関係者への感染リスクを最小限にするなどの観点から安全確保を最優先課題としてリモート授業を行っております。しかしながら日々現地校に通う児童生徒にとって、補習校で対面授業を通じて得られることの意味や価値は大きい、という認識の下、条件が整えば対面授業に移行することを理事会にて引き続き検討しています。

再開に当たっては以下のステップで進めようとしております。

1. CDC並びにKY州公共衛生部(KDPH)の安全基準を満たした条件で授業が再開できること、KY州のCOVID-19発生状況が落ち着いていること(Fayette郡の発生率が100万人中10人以下になっていること＝上記の地図で黄色もしくは緑色になっていること)を確認する
2. 感染拡大抑止のため登校時の検温スクリーニングなどの体制を整える
3. 1・2の体制が整い対面授業を再開することを児童生徒と保護者、先生方にご説明を行う
4. 午前中のみ対面授業を再開し、状況をみながら午後までの通常授業に戻す

但し、前回10月のご報告時では認められていなかった5歳以上11歳未満のワクチン接種が認可されて、幼稚部の生徒の一部を含めて自己防衛策が増えたのは大きな変化点です。一方でワクチン接種者の感染も増えてきており一進一退ではありますが、こうした中で、できるだけ多くの方のご理解のもとに授業再開を図りたいと考えております。また再開に当たっては各家庭での児童生徒の体調確認など、保護者の方のご協力が不可欠です。学校再開に向けて理事会として引き続き議論を重ね、ご理解を賜れるよう継続的に状況のご報告をさせて頂こうと考えております。

引き続き関係各位のご理解ご協力を重ねてお願い申し上げます。